

<調査の概要>

- 調査の目的
義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 調査実施日
令和8年4月23日(木)
(中学校英語は、令和8年4月20日～5月29日)
- 調査の対象
小学6年生：国語・算数・質問調査
中学3年生：国語・数学・英語・質問調査



令和8年度全国学力・学習
状況調査の問題・正答例・
解説資料・質問調査は、こ
ちらからご覧になれます

<結果の概要> ※文章の後ろの(数字)は調査問題の設問番号を表しています

<小学校 国語>

<平均正答数>			市	全国
小学校			6.6問/13問	7.9問/13問

<小学校>			平均正答率	
			市	全国
全体			51.0	60.9
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	54.7	66.8
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	44.3	52.3
		(3) 我が国の言語文化に関する事項		
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	56.0	65.8
		B 書くこと	36.8	45.7
		C 読むこと	56.1	65.9
	評価の観点	知識・技能	51.2	62.0
		思考・判断・表現	50.6	60.1
	問題形式	選択式	52.5	61.9
短答式		50.1	62.6	
記述式		44.5	54.9	

★良好なところ
・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。
(2三ア)「みじか(い)」→「短(い)」
日常的に使用する漢字

▲課題となるところ
・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。
(2三イ)「ふしぎ」→「不思議」
同音異字が想起される語、一単語の字数が多い書き取りの設問
・引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できること。
(2四)

<中学校 国語>

<平均正答数>			市	全国
中学校			7.9問/15問	9.6問/15問

<中学校>			平均正答率	
			市	全国
全体			53.0	63.9
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	53.4	63.0
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	59.2	70.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項		
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	51.8	63.9
		B 書くこと	56.0	67.4
		C 読むこと	47.7	59.7
評価の観点		知識・技能	54.4	64.2
		思考・判断・表現	51.8	63.7
問題形式	選択式	63.2	72.7	
	短答式	44.8	55.8	
	記述式	30.0	45.5	

★良好なところ
・助動詞の働きについて理解していること。(1一)
・単語の活用について理解していること。(1三)

▲課題となるところ
・文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うこと。(3一)
・表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすこと。(3四)
・語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えること。(4二)
・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること。(4四)

- (小中共通)
- 教科に係る結果では、小中学校とも、いずれの教科においても全国と比べて低い状況です。
 - どの教科においても、知識・技能に分類される基礎的な問題の正答率に対し、思考・判断・表現に分類される記述問題、複数の知識を組み合わせて解答する問題の正答率に課題があります。
 - 国語では、複数の情報を整理して、決められた条件の中で、自分の言葉で表現することに課題があります。
 - 算数・数学では、計算等の技能は定着していますが、図形やデータの活用、思考力を要する記述問題において、理由を筋道立てて説明することに課題があります。
 - 英語では、半数の生徒がIRT/バンドの「1」「2」に位置しています。日常的に英語を読んだり聞いたりする機会を確保するとともに、自分の思いや考え、その理由を簡単な英文に表す練習を積み重ねることが大切です。
 - どの教科も考えを記述することに課題があります。自分の考えを書いて表現することや、考えの根拠や理由を説明することを繰り返すことが大切です。授業では、対話をおして考えを広げたり、深めたりしながら、記述する機会を積極的に設けることが大切です。
 - 児童生徒の生活習慣・学習習慣に課題があることから、家庭・地域と連携した教育活動の中で子どもの主体的に学習に取り組む態度を育むことが大切です。学力を着実に身に付けるための家庭学習・自主学習、授業づくりが大切です。

<小学校 算数>

<平均正答数>		市	全国
小学校		7.5問/16問	9.0問/16問

<小学校>		平均正答率	
		市	全国
全体		47	56.4
学習指導要領 の領域	A 数と計算	51.6	61.1
	B 図形	42.8	55.3
	C 測定	68.5	78.1
	D 変化と関係	33.7	41.1
	D データの活用	39.3	48.6
評価の観点	知識・技能	50.9	60.1
	思考・判断・表現	35.1	45.4
問題 形式	選択式	48.3	56.0
	短答式	50.1	59.7
	記述式	36.5	48.5

★良好なところ
・小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくること。(3(1))

▲課題となるところ
・単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断すること。(2(3))
・基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶこと。(2(4))
・異分母の分数の大小を判断し、その理由を数と言葉を用いて記述すること。(3(3))
・二次元の表から、条件に合う数を読み取ること。(4(3))

<中学校 数学>

<平均正答数>		市	全国
中学校		7.2問/16問	9.1問/16問

<中学校>		平均正答率	
		市	全国
学習指導要領 の領域	全体	45.0	57.0
	A 数と式	56.8	67.8
	B 図形	37.0	48.7
	C 関数	43.7	54.8
	D データの活用	39.7	53.5
評価の観点	知識・技能	51.8	63.0
	思考・判断・表現	25.0	39.1
問題 形式	選択式	48.6	59.3
	短答式	52.9	64.2
	記述式	25.0	39.1

★良好なところ
・具体的な場面において、正の数と負の数をもちいて変化や状況を表すこと(1)

▲課題となるところ
・統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明すること。(6(3))
・数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。(7(2))
・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明すること。(9(3))

＜結果の概要＞ ※文章の後ろの(数字)は調査問題の設問番号を表しています

＜中学校 英語＞

3技能「聞くこと」「読むこと」「書くこと」

＜IRTスコア＞	市	全国
中学校	454	499

4技能 3技能+「話すこと」

＜IRTスコア＞	市	全国
中学校	453	499

「聞くこと」「読むこと」「書くこと」

★良好なところ

- ・日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ること。(2)

▲課題となるところ

- ・日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ること。(4)
- ・社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くこと。(10(2))
- ・日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くこと。(13、14)

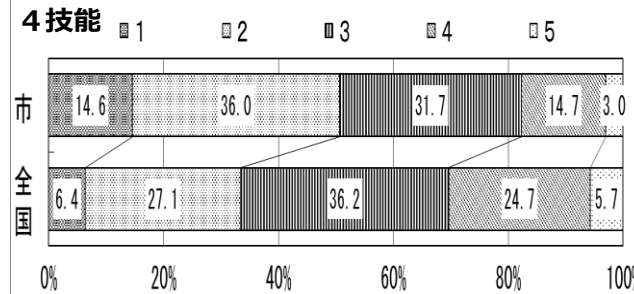
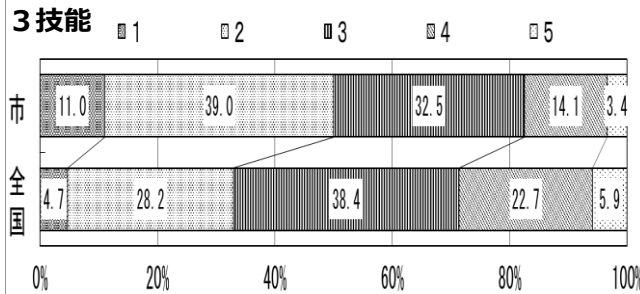
「話すこと」

★良好なところ

- ・電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生からの質問を聞き、明日しようと思っていることを伝えること。(15(2)b)

▲課題となるところ

- ・自分の好きな人物を1人取り上げ、好きな理由を話すこと。(16)
- ・学校生活をよりよくする方法に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すこと。(19)

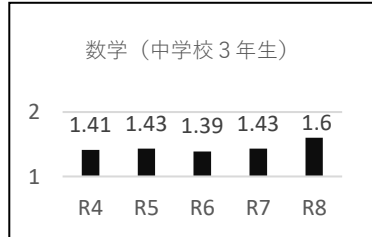
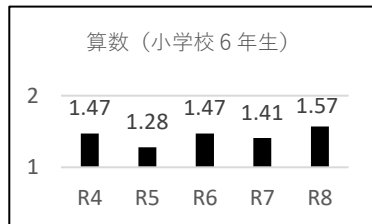
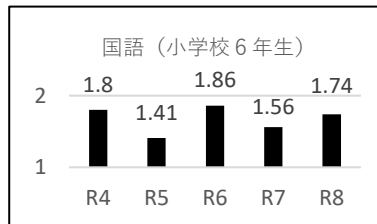


中学校英語は1人1台端末を活用したオンライン（IRT方式）で実施。IRTとは生徒の正答・誤答が問題の特性によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定する統計理論のことです。問題は全日程共通と実施日により異なる公開問題、生徒ごとに異なる非公開問題があります。

※IRT（項目反応理論）に基づき、500を基準に算出したIRTスコアで結果を表示。IRTスコアは、「聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと」の4技能を統合したもので、「話すこと」の実施校のデータに基づいて全国値を算出。各学校には、3技能を統合したIRTスコアと4技能を統合したIRTスコアをそれぞれ返却。

＜中学校 IRTバンド分布比較＞ ※IRTバンド…IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準にバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

＜正答率40%以下の児童生徒の割合（全国を1とした場合）＞



＜経年変化（平均正答率）＞

小学校	R6			R7			R8		
	岸和田市	全国	対全国比	岸和田市	全国	対全国比	岸和田市	全国	対全国比
国語	59	67.7	0.87	60	66.8	0.90	51	60.9	0.84
算数	55	63.4	0.87	50	58	0.86	47	56.4	0.83
理科				47	57.1	0.82			
中学校	R6			R7			R8		
	岸和田市	全国	対全国比	岸和田市	全国	対全国比	岸和田市	全国	対全国比
国語	49	58.1	0.84	45	54.3	0.83	53	63.9	0.83
数学	43	52.5	0.82	35	48.3	0.72	45	57.0	0.79
英語(3技能)							454	499	
英語(4技能)							453	499	

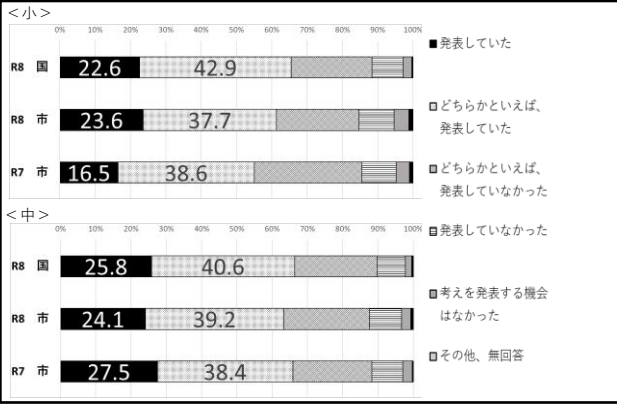
※令和6～8年度国語、算数・数学は平均正答率で、令和7年度理科、令和8年度英語はIRTスコアで表記しています。

正答率40%以下の児童の割合は全国に比べて高い割合です。AIドリルも活用しながら、基礎基本の定着と活用力の育成に向けて、今後も個別最適な学び（児童生徒の定着度や興味関心に基づいた学び等）と協働的な学びを充実させる必要があります。また、児童生徒の興味関心を高める授業を行うことで、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力を育みます。

<質問調査の結果概要>

<学習について>

■5年生（1，2年生まで）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

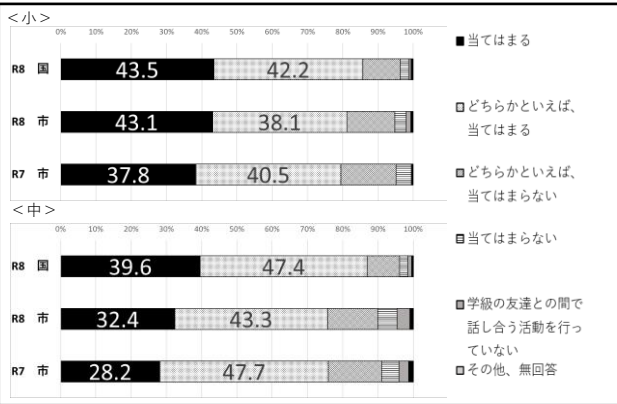


自分の考えを発表する際に、自分の考えが上手く伝わるように工夫することが大切です。今年度は、小中学校ともに肯定的に回答した児童生徒の割合が全国平均を下回ったものの、小学校は昨年度よりも高くなっています。

日々の授業で意識して学習していることがうかがえます。自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫するには、「情報活用能力」や「言語能力」が必要です。

すべての教科でこれらの力を育み、それを発揮する発表の場面を意識的に設けることが大切であると考えます。

■学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。



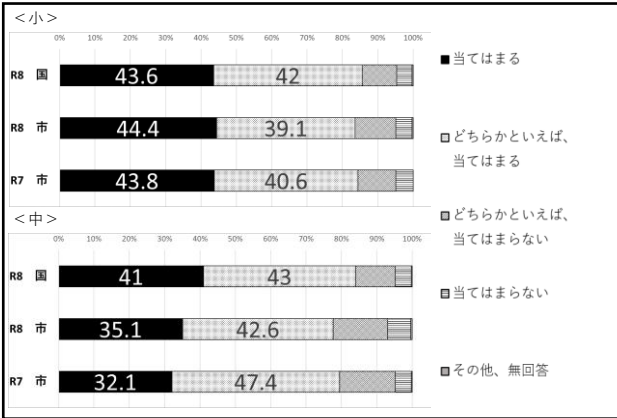
小中学校ともに、肯定的回答が昨年度より上回りました。自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づくためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現が必要不可欠です。

各学校では、子どもたちが対話する場面を積極的に設けています。また、その中で、子ども同士の関係性を育んだり、相手の意見を興味を持って聞く態度を養ったりしています。

子ども自身が考えを深めたり、新たな考え方に気付くためには、考えの共有にとどまらず、他者の考えと自分の考えを比較検討したり、物事を多角的な視点で捉えることが必要です。その前提として、根拠を持って自分の意見を伝えられるようになることも大切です。

<自己有用感等について>

■自分には、よいところがあると思いますか。

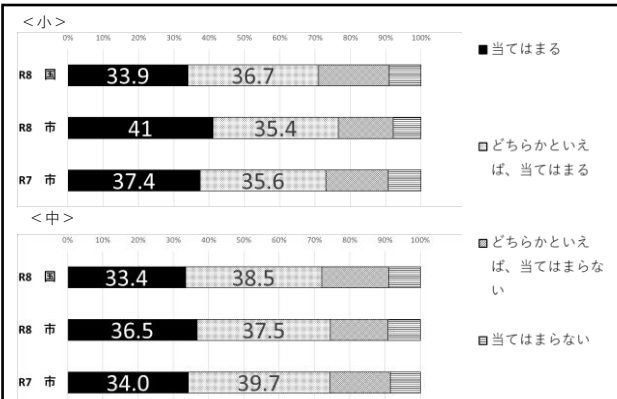


8割程度の児童生徒が肯定的な回答をしています。自己有用感を高めるには、単に「ほめる」だけでなく、自分の存在や行動が、他者や集団の役に立っている、子ども自身が実感することが大切です。非認知能力を高めることは、認知能力の向上にもつながります。

各校では、集団の中で一人ひとりに役割を持たせたり、対話や協働学習の中で多様な活躍の場を設けたりしています。その中で、承認やフィードバックを行うことを大切に、子どもたちの自己有用感を高めています。

今後も、学校・家庭・地域が連携して子どもたちを見守り、活躍できる場面を創出することが大切であると考えます。

■困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。

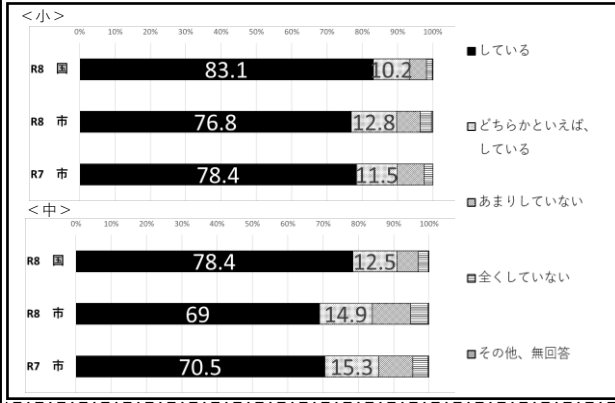


肯定的な回答をする児童生徒の割合は、小中学校ともに年々高くなっており、昨年度に続き、今年度も全国を上回りました。引き続き、学習指導や生徒指導等、あらゆる場面で、子どもたちの丁寧な関わりを積み重ねていきたいと考えます。また、学習支援員や子どもサポーター等の配置により、子どもたちが学校の中でいろいろな大人と関わることができそうです。今後も教職員が一体となって、子どもたちが安心して過ごせる環境をつくっていききたいと思います。

教職員をはじめとした大人との信頼関係の構築や安心できる学校づくりが、学力向上の土台になると考えています。

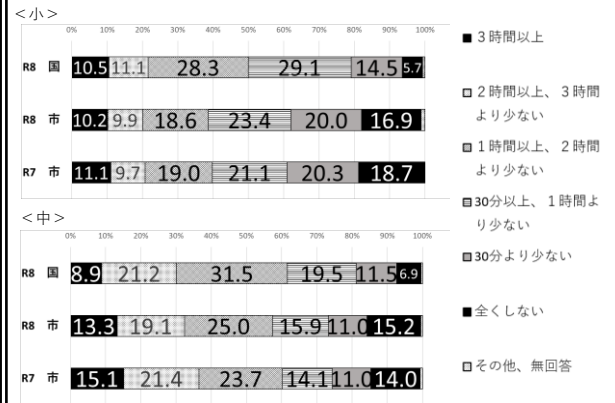
<生活について>

■朝食を毎日食べていますか。



朝食を毎日食べている児童生徒の割合は、全国よりも低いです。朝食は、一日の学習や運動のエネルギー源であり、集中力や心の安定にもつながっています。子どもたちが学校で元気いっしょに活動できるためにも、毎日朝食をとる習慣をつけていきたいと思います。

■学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



小学校において、全国では「30分以上 1時間未満」や「1時間以上 2時間未満」の割合が高いのに対し、市では「30分より少ない」や「全くしない」の割合が全国よりも高く、課題があります。中学校においては、「3時間以上」の長時間学習する生徒の割合が全国を上回っている一方で、「全くしない」の割合も全国よりも高く、学習時間の二極化が見られます。

児童生徒質問「分らないことやよくわく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」で肯定的回答をした児童生徒の割合は、小学校79.8%、中学校79.7%と、全国を上回っています。この力を家庭学習・自主学習にも生かし、学習習慣につなげていきたいと思います。

各校においては学習習慣定着に向けて、自主学習の取組みを進める等、工夫をこらしているところです。引き続き、家庭学習・自主学習の方法を丁寧に指導していくことが大切です。また、AIドリルの活用が、家庭学習・自主学習の習慣につながることを期待しています。

<調査の概要>

1. 調査の目的 子どもたち一人ひとりが自らの強みを知り、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力、問題発見・解決能力等を向上させ、社会を生き抜く力を着実につける。
2. 調査実施日 令和8年4月22日（水）～4月30日（木）
3. 調査の対象 大阪府内小学校、義務教育学校前期課程及び支援学校小学部の第5・6学年
4. 調査の内容 5年生：国語、算数、理科、わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート
6年生：理科、わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート

<結果の概要>

<国語>

- ★良好なところ
- ・文中の助詞を正しく使うこと。(2(1)(2))
 - ・日常で使うローマ字を正しく書くこと。(4)
 - ・一文を二文に分けて書くとき、文と文の意味のつながりを考え、適切な接続語を使うこと。(9)

▲課題となるところ

- ・文の中における主語と述語の関係に注意して、述語の部分を正しく書くこと。(3(1)(2))
- ・文と文との意味のつながりを考えながら、適切な接続表現を使って一文で書くこと。(10)

助詞を正しく使う、ローマ字を正しく書くなど、使用する機会が多いものは定着しています。一方、主語と述語の関係に注意して文章を書き表すこと、適切な接続表現を使って文をつなぐことに課題がみられます。国語だけでなく、他教科でも振り返りなど自分の意見を書かせる場面において、セルフチェックを習慣化させることで、改善できると考えます。

分類		区分	対象 問題数 (問)	平均正答率 (%)	
				市	府
全体			17	61.6	70.3
学習 指導 要領 の 内容	知識 及び 技能	言葉の特徴や使い方に 関する事項	15	61.2	69.8
		情報の扱い方に 関する事項	1	69.6	75.6
		我が国の言語文化に 関する事項	1	60.1	72.5
	思考力、 判断力、 表現力等	話すこと・聞くこと	－	－	－
		書くこと	5	59.2	67.8
		読むこと	－	－	－
評価の 観点	知識・技能	17	61.6	70.3	
	思考・判断・表現 主体的に学習に 取り組む態度	5	59.2	67.8	
問題 形式	選択式	8	63.1	71.9	
	短答式	9	60.3	68.9	
	記述式	－	－	－	

<算数>

- ★良好なところ
- ・約束した時刻の5分前にお店に着くように、学校を出発する時刻を求めること。(1(1))

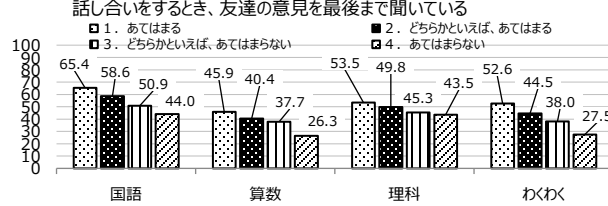
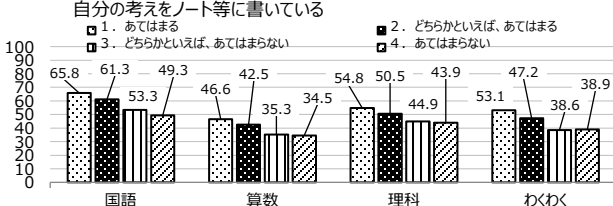
▲課題となるところ

- ・2021年の値段をもとにしたとき、2025年の値段がもとの何倍であるかを求めること。(1(2))
- ・伴って変わる二つの数量の関係を読み取り、□、△を用いてその関係を式で表すこと。(2(1))
- ・4本の直線の位置関係から、4本の直線に囲まれた図形の形に着目し説明すること。(2(3))

会話文や表、条件などの情報から必要な数値を選択・整理し、立式及び論理的に説明することに課題がみられます。日常的に情報の整理・活用に取り組み、そのプロセスを言語化する活動を行うことで改善できると考えます。

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
			市	府
	全体	6	42.9	51.9
学習指導要領の領域等	数と計算	3	30.3	39.3
	図形	2	48.7	52.1
	測定・変化と関係	2	41.3	54.0
	データの活用	1	52.3	64.4
評価の観点	知識・技能	4	36.9	46.4
	思考・判断・表現	2	54.9	63.0
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式	選択式	1	39.9	42.6
	短答式	3	35.9	47.6
	記述式	2	54.9	63.0

<児童アンケート結果(抜粋) 平均正答率とクロス集計 >



<各教科平均正答率>

	令和6年度			令和7年度			令和8年度		
	市	府	対府比	市	府	対府比	市	府	対府比
国語(5年)	67.8	73.4	0.92	62.5	69.2	0.90	61.6	70.3	0.88
算数(5年)	28.0	36.7	0.76	60.0	67.9	0.88	42.9	51.9	0.83
理科(5年)	57.6	61.9	0.93	51.5	59.8	0.86	51.5	60.1	0.86
理科(6年)	58.0	63.7	0.91	—	—	—	57.0	64.0	0.89



令和8年度小学生すくすくウォッチの問題・解答・大阪府の結果概要は、こちらからご覧いただけます。

<5年理科>

- ★良好なところ
- ・空気は熱せられた部分が上方に移動して全体が温まってくることを理解し、熱気球が飛び仕組みと結び付けて考えること。(1(1))
- ▲課題となるところ
- ・直列つなぎと並列つなぎの性質について理解すること。(2(2)(2))
 - ・磁石に引き付けられる物と引き付けられない物があることや、電気を通す物と通さない物があることを理解し、おもちゃ作りの過程を通して銅の性質について考えること。(2(3)(2))

<6年理科>

- ★良好なところ
- ・空気は熱せられた部分が上方に移動して全体が温まってくることを理解し、熱気球が飛び仕組みと結び付けて考えること。(1(1))
- ▲課題となるところ
- ・水の温度の変化と水の状態の変化の関係を理解し、汚れた水をきれいにする仕組みと結び付けて考えること。(1(4))
 - ・温度変化によって、どの水溶液から溶けている物が取り出せるかを考えること。(2(5))

5年・6年ともに、「既習知識の定着」「会話文や表から必要な情報を選択・整理し、すること」に課題がみられます。授業や日常の場面、生活の中で、既習知識と結び付けて考えること、情報を整理して伝える習慣を定着することで改善できると考えます。

<小学校5・6年>【わくわく問題（教科横断型問題）平均正答率】>

	令和6年度			令和7年度			令和8年度		
	市	府	対府比	市	府	対府比	市	府	対府比
全体	55.5	63.3	0.88	63.4	70.8	0.90	54.5	63.3	0.86
観点	A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる	57.5	65.6	0.88	67.4	74.4	0.90	54.0	63.0
	B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える	48.3	56.5	0.86	63.3	70.3	0.90	49.0	58.1
	C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える	59.0	68.8	0.86	51.4	61.9	0.83	57.3	67.2
	D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える	65.8	74.3	0.89	63.9	72.3	0.88	61.5	71.0
	E 興味・関心のある事について、意欲的に工夫して相手に伝える	79.3	85.3	0.93	51.4	61.9	0.83	69.8	78.4

- ★良好なところ
- ・興味・関心のある事について、意欲的に工夫して相手に伝えること。
- ▲課題となるところ
- ・図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考えること。

5年・6年ともに「図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けること」が求められる設問について課題がみられます。探究的な学びを通して、子どもたちが自分が必要な情報を選択する・整理する・まとめる・表現する経験を何度も重ねていくことで、改善できると考えます。

アンケートの項目と平均正答率のクロス集計の結果、「自分の考えをノート等にも書いている」や「話し合いをするとき、友達の意見を最後まで聞いている」という項目において、肯定的に答えている児童ほど平均正答率が高いことが分かりました。子どもたちが自らの考えを書く場面を取り入れ、自分の考えを整理して言語化する授業を継続していきます。また、「協働的な学び」を推進する中で、相手の意見を聞いて考え、話し合う機会を積極的に設けています。

令和8年度 岸和田市学力調査 岸和田市の結果概要

岸和田市教育委員会

＜調査の概要＞

1. 調査の目的 児童の学力の状況と課題をよりの確に把握し、それに応じた学習指導の改善や充実に役立てる。
2. 調査実施日 令和8年6月10日（水）
3. 調査の対象 市内小学校3・4年生（3年生：1,330名 4年生：1,269名 合計：2,599名）
4. 調査の内容 国語、算数

＜結果の概要（国語）＞

3年国語		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
		平均正答率	対全国比	平均正答率	対全国比	平均正答率	対全国比
		市		市		市	
全体		62.0	0.85	58.8	0.87	63.0	0.86
基礎活用	基礎	71.0	0.88	69.6	0.90	72.4	0.89
	活用	44.0	0.76	37.1	0.76	45.4	0.79
観 点 別	知識・技能	69.2	0.89	68.4	0.92	71.8	0.90
	思考・判断・表現	52.9	0.80	51.9	0.82	57.4	0.84
	主体的に学習に取り組む態度	40.1	0.71				
領 域	言葉の特徴や使い方に 関する事項	78.5	0.91	73.3	0.92	75.4	0.90
	情報の扱い方に 関する事項	27.8	0.70	24.8	0.96	42.5	0.85
	話すこと・聞くこと	71.2	0.89	57.3	0.88	70.1	0.92
	書くこと	36.9	0.67	34.8	0.64	44.7	0.74
解答形式	読むこと	57.1	0.84	56.1	0.85	61.6	0.87
	選択	59.2	0.85	61.1	0.91	62.5	0.89
	短答	77.3	0.91	67.4	0.90	71.8	0.90
	記述	40.1	0.71	37.6	0.70	47.9	0.75

＜結果の概要（算数）＞

3年算数		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
		平均正答率	対全国比	平均正答率	対全国比	平均正答率	対全国比
		市		市		市	
全体		68.4	0.88	67.8	0.90	66.5	0.89
基礎活用	基礎	73.2	0.90	72.7	0.91	70.1	0.90
	活用	51	0.79	47.4	0.81	52.6	0.84
観 点 別	知識・技能	71.2	0.89	69.4	0.90	69.7	0.90
	思考・判断・表現	53.1	0.81	59.6	0.88	54.5	0.84
	主体的に学習に取り組む態度	61.3	0.84				
領 域	数と計算	70.0	0.88	71.7	0.92	65.4	0.88
	図形	62.3	0.86	47.3	0.80	69.6	0.87
	測定	65.6	0.86	67.8	0.87	65.4	0.90
	データの活用	78.4	0.92	73.8	0.92	73.4	0.94
解答形式	選択	64.8	0.87	66.8	0.89	65.5	0.88
	短答	74.9	0.89	72.4	0.92	73.7	0.92
	記述	48.0	0.74	25.8	0.68	12.8	0.67

4年国語		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
		平均正答率	対全国比	平均正答率	対全国比	平均正答率	対全国比
		市		市		市	
全体		60.3	0.82	56.6	0.85	62.5	0.89
基礎活用	基礎	65.3	0.83	60.4	0.86	66.9	0.90
	活用	49.9	0.79	48.4	0.81	53.0	0.87
観 点 別	知識・技能	59.2	0.82	56.1	0.86	70.0	0.91
	思考・判断・表現	56.3	0.81	56.8	0.83	57.5	0.87
	主体的に学習に取り組む態度	43.4	0.72				
領 域	言葉の特徴や使い方に 関する事項	61.3	0.81	56.2	0.86	72.4	0.92
	情報の扱い方に 関する事項	42.9	0.81	41.1	0.78	51.8	0.85
	我が国の言語文化に 関する事項	73.1	0.88	70.7	0.92	68.7	0.91
	話すこと・聞くこと	73.5	0.90	52.9	0.85	78.3	0.94
解答形式	書くこと	41.3	0.71	44.2	0.68	43.5	0.77
	読むこと	62.7	0.84	68.5	0.91	61.0	0.90
	選択	67.9	0.86	62.5	0.89	62.6	0.91
	短答	61.8	0.83	59.9	0.87	72.3	0.92
	記述	39.9	0.70	40.9	0.70	50.7	0.80

4年算数		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
		平均正答率	対全国比	平均正答率	対全国比	平均正答率	対全国比
		市		市		市	
全体		64.8	0.90	64.5	0.89	64.7	0.90
基礎活用	基礎	67.9	0.90	68.5	0.90	67.5	0.89
	活用	56.6	0.88	50.2	0.85	55.7	0.92
観 点 別	知識・技能	68.4	0.91	68.9	0.90	68.4	0.90
	思考・判断・表現	51.9	0.84	48.9	0.84	52.8	0.90
	主体的に学習に取り組む態度	68.9	0.92				
領 域	数と計算	61.6	0.88	64.2	0.89	62.6	0.88
	図形	69.6	0.91	77.0	0.91	52.8	0.87
	測定	75.0	0.92	63.6	0.88	76.6	0.96
	データの活用	65.2	0.93	51.8	0.85	65.5	0.94
解答形式	選択	65.7	0.9	68.4	0.91	72.7	0.94
	短答	67.5	0.91	64.6	0.89	60.1	0.84
	記述	39.6	0.76	30.3	0.67	32.0	0.99

★良好なところ

- (3年生)
- ・第2学年に配当されている漢字を正しく読むこと。
- (4年生)
- ・話し手が伝えたいことの中心を捉えること。
 - ・第3学年に配当されている漢字を正しく読むこと。

▲課題となるところ

- (3年生)
- ・語と語や文と文との続き方に注意しながら、文章を書くこと。
 - ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。
- (4年生)
- ・書く内容の中心を明確にして、文章の構成を考えること。
 - ・相手や目的を意識して、伝えたいことを明確にして書くこと。
 - ・自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書くこと。

漢字を読むことについては、定着がみられますが、漢字を書くことについては、出題される漢字の種類によって差がみられます。また、指定された条件で文章を書くことに課題がみられます。

読書などを通して様々な言葉を身に付けるとともに、他教科でも自分の考えや意見を書く場面で、文章の構成を意識した書く活動を、継続・反復する必要があります。あわせて、自分で考え、言語化する場面を取り入れた授業や興味関心のあることについて話す場面を重ねることが改善につながると考えます。

★良好なところ

- (3年生)
- ・九九、足し算の計算をすること。
- (4年生)
- ・2けた÷1けた＝1けた(余りなし)の計算をすること。
 - ・25分後の時刻を求めること。

▲課題となるところ

- (3年生)
- ・もとの大きさの1/3の大きさの意味を理解すること。
 - ・百の位の数字が同じ場合に、十の位の数字を比較すれば大きさが判断できることを説明すること。
- (4年生)
- ・2けたのかけ算、小数や分数の引き算の計算をすること。
 - ・グラフを読み取り、2つの数を比較して何倍かを求めること。
 - ・直径と半径の関係を理解し、ビー玉を通すために半径何mmの円にすればよいかを説明すること。

日常的に使う計算や数学的思考方については、おおそ定着していることがうかがえます。既習内容の定着や数学的な表現を用いて説明することに課題があります。既習内容と結び付けて考え、言語化する授業を教科横断的に行うことや、既習内容の反復・定着を狙った取組みが改善につながると考えます。